

## 福徳岡ノ場の火山活動解説資料（令和3年12月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

8月下旬以降、噴火は認められないものの、引き続き、変色水域が確認されています。

福徳岡ノ場の過去の活動履歴を考慮すると、8月に発生した陸地を形成するような規模の噴火が、再びすぐに発生する可能性は低いと考えられますが、変色水域が確認されるなど、活発な火山活動が継続しており、今後も噴火の可能性があります。

福徳岡ノ場の周辺海域では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石やベースサージ（横なぐりの噴煙）に警戒してください。噴火による浮遊物（軽石）にも注意が必要です。

令和3年8月16日に噴火警報（周辺海域）を切り替えました。その後警報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況（図1、図2）

11月29日（期間外）に海上保安庁が実施した上空からの観測では、11月11日の調査までは確認できた新島の台地が消滅していたこと、新島周辺に茶褐色～黄緑色の変色水域が広がっていることが確認されました。

12月14日の同観測では、11月29日の観測と比較して、新島の面積が減少していたこと、新島周辺に黄緑色の変色水域が、新島北北東に青白色の変色水域が広がっていることが確認されました。

27日の同観測では、14日と比較し、新島は縮小しており、波浪により陸地が見え隠れしている状況でした。また、新島の東側から茶褐色の変色水の湧出を認め、同位置から東側約5kmにかけて黄緑色の変色水の分布を認められました。これらのことから、活発な火山活動が継続していると考えられます。

気象衛星ひまわりの観測では、今期間、噴火活動の活発化や溶岩流出を示唆するような輝度温度<sup>1)</sup>の変化は認められていません。

1) 輝度温度とは、気象衛星で観測された放射エネルギーを観測対象が黒体と仮定して変換した温度のことで、他の温度と区別するためこのように呼ばれています。



図1 福徳岡ノ場 新島及び周辺海域の状況（12月27日）

- ・12月27日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、14日と比較し、新島は縮小しており、波浪により陸地が見え隠れしている状況でした。また、新島の東側から茶褐色の変色水の湧出を認め、同位置から東側約5kmにかけて黄緑色の変色水の分布を認められました。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和4年1月分）は令和4年2月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、海上自衛隊、海上保安庁及び第三管区海上保安本部のデータも利用して作成しています。

各種気象情報や衛星画像は福徳岡ノ場ポータルサイトを御覧ください。 [https://www.jma.go.jp/jma/menu/R03\\_karuishi-menu.html](https://www.jma.go.jp/jma/menu/R03_karuishi-menu.html)

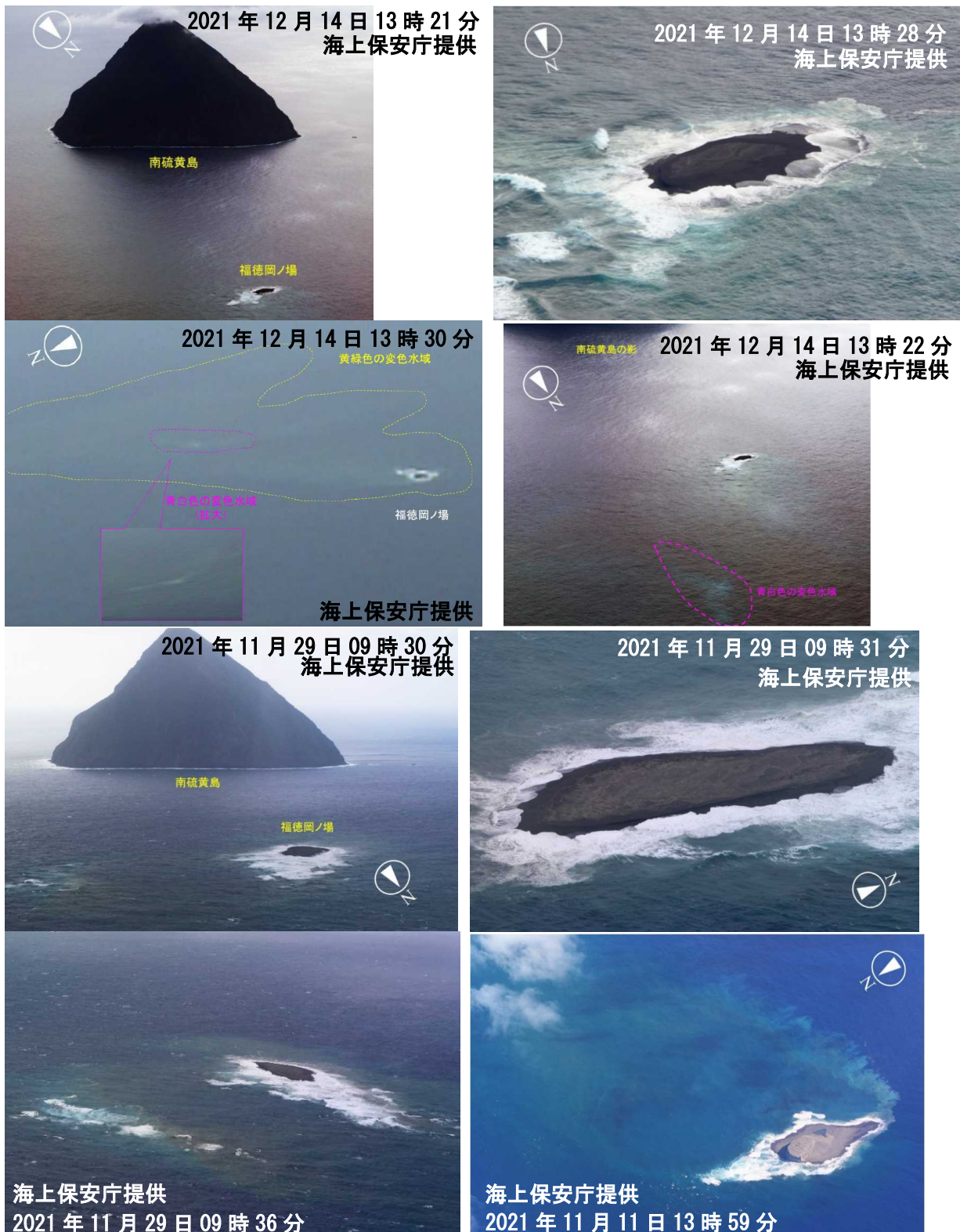


図2 福徳岡ノ場 新島及び周辺海域の状況（2021年11月29日、12月14日）

- ・11月29日（期間外）に海上保安庁が実施した上空からの観測では、11月11日の調査までは確認できた新島の台地が消滅していたこと、新島周辺に茶褐色～黄緑色の変色水域が広がっていることが確認されました。
- ・12月14日の同観測では、11月29日の観測と比較して、新島の面積が減少していたこと、新島周辺に黄緑色の変色水域、新島北北東に青白色の変色水域が広がっていることが確認されました。

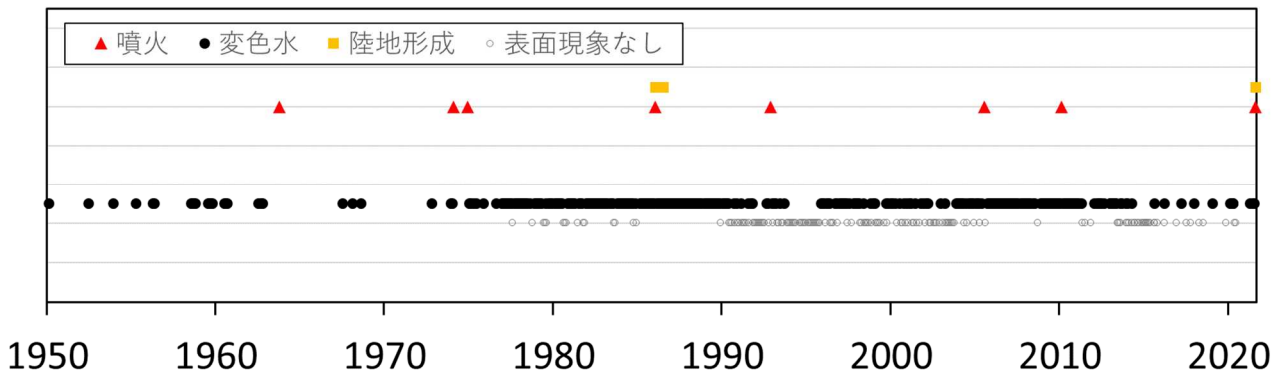


図3 福徳岡ノ場 1950年以降の活動状況

シンボルがあるタイミングで観測が行われています。●は変色水域が認められた観測、○は変色水域が認められなかった観測、■は陸地が確認された観測、▲は噴火が認められた観測を示します。海上保安庁、第三管区海上保安本部、海上自衛隊、気象庁、漁船及び報道機関等の観測による。

- ・ 8月13日に海底噴火が確認された福徳岡ノ場では、過去にも数年間隔で海底噴火が確認されています。発生する噴火には、陸地を形成するような規模の噴火と、そうでないそれよりも規模の小さな噴火があります。
- ・ 1986年にも噴火が発生し、新島を形成しましたが、海面上に姿を現す顕著な噴火は1月18日～21日の数日でした。その後、3月26日には新島は消滅しています。
- ・ 2010年2月3日に小規模な海底噴火、浮遊物、変色水域が認められた後も、長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が断続的に認められていました。
- ・ 福徳岡ノ場の過去の活動履歴を考慮すると、8月に発生した陸地を形成するような規模の噴火が、再びすぐに発生する可能性は低いと考えられます。

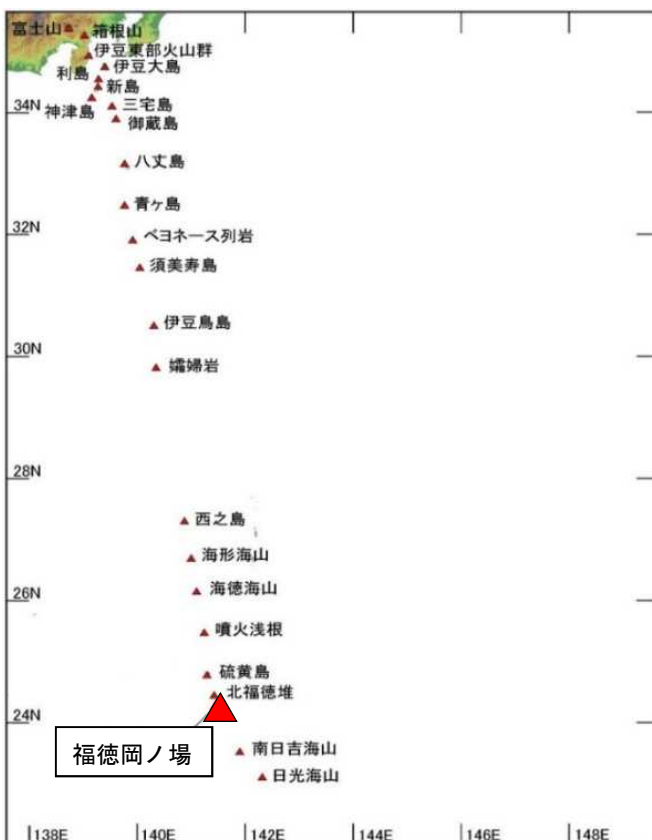


図4 福徳岡ノ場 伊豆・小笠原諸島の活火山分布と福徳岡ノ場地図は、日本活火山総覧（第4版）から引用。